

西濃農林事務所の普及活動状況

平成30年10月31日現在

今月の重点活動

■神戸町下宮青果部会協議会 土壌診断個別面談の開催

9月にJAにしみの神戸集出荷センターで開催された、第1回土壌診断研修会（集合研修会）において、生産者から自分のほ場の土壌診断結果や処方について具体的に聞きたいという要望があった。そのため、生産者、肥料メーカー、JA、全農ぎふ、農林事務所による個別面談を企画し、10月10、11日の2日間に実施した（計36戸）。

今回、初めて土壌診断を行った生産者が多かったが、当日は全生産者が出席し、意見、質問、要望等、かなりの反響があったように感じられた。今後も土壌診断の体制づくりと実際の施肥改善をすすめていく予定である。



【個別面談の様子】

多様な担い手づくり

■アグリ・エンジョイネット岐阜 明日を拓く農業・女性フォーラムの開催

10月4日に、アグリ・エンジョイネット岐阜が主催する「明日を拓く農業・女性フォーラム」が西濃総合庁舎で開催された。午前の部では、岐阜県6次産業化サポートセンターによる「6次産業化の事例を通じた事業のポイント」について講演が行われた。6次産業化だけでなく安全・安心な食についても説明され、参加者は興味深そうに聞き入っていた。午後の部は、安八町農産物加工運営委員会の農産物加工施設の現地視察が行われ、熱心な質疑応答が交わされた。

農業普及課は、フォーラムの企画から当日の運営について支援を行った。



【加工施設の視察】

■帰農塾 海津市やさい塾～春菊、なばなの生産者確保・育成に向けて～

10月5日にJAにしみの海津地域やさい塾が開催された。定年帰農など、新たな就農者の発掘を目的とした3年目の取組みとなる。春菊、なばなの栽培を取り上げた体験型の講座とし、4名の参加があった。農業普及課から栽培の概要とポイントについて説明し、定植・播種の実習を行った。終了後、各自で栽培を行うよう、参加者には苗が配布された。次回は、摘心、出荷調整、施肥等栽培管理について講習する予定である。

海津春菊部会、なばな部会では近年、会員が減少しており、継続的な取り組みで部会の維持・発展につながればと考えている。



【ほ場での講習風景】

売れるブランドづくり

■トマト 全体研究会を開催

10月26日、JAにしみの高須支店において全体研究会が開催され、海津トマト部会、関係機関から70名が出席した。平成31年産の栽培では、桃太郎ネクストの試作を30名が生産者が行っていることから、種苗メーカーも招いて栽培管理の検討を行った。種苗メーカーからは、今後の肥培管理についての説明があり、生産者からは「慣行の品種よりも草勢が強い」等の意見があった。

農業普及課から、生育状況、灰色かび病対策、炭酸ガス施用についての情報提供を行った。

■ ブロッコリー 10月より収穫開始

8月下旬より定植が始まったブロッコリーは、10月上旬に定植が終了した。早生品種については、台風21号の影響により生育がやや遅れているが、11月中旬より出荷が始まる予定である。これまでの天候不良・台風の影響がどの程度となるかは不明であるが、年内は早生品種を中心に出荷が行われ、年明けより中・晩生品種が出荷される計画である。

農業普及課では昨年に引き続き、農家の協力を得て、早生・晩生品種の品種試験を行う。



品種試験ほ場

■ ナバナ 直播・移植作業が終了

直播栽培の播種は9月中旬、移植栽培の定植が9月下旬から行われた。8月末、9月上中旬の降雨が多く、台風の影響も大きかったことから作業が大幅に遅れたほ場もあった。直播栽培は早播きにより根こぶ病が発生しやすいため、薬剤による防除を啓発しており、今のところ発生は確認されていない。

早期に移植が行われたほ場は10月20日過ぎから出荷され、農業普及課では引き続き排水対策と肥培管理、病虫害防除対策について指導を行う。



■ バラ 神戸町バラ生産組合ほ場検討会の開催

9月28日、神戸町バラ生産組合において、全生産者（6戸）のほ場を巡回する研修会が開催された。県機関からは農業技術センター花き部長を招き、最新の養液分析結果をもとに、今後の肥培管理について助言がされた。農業普及課からは病虫害対策に関する情報提供や生育障害株の判断として、健全株と障害株の廃液を提出するよう助言を行った。

農業普及課は、神戸町バラ生産組合に対しては毎月1回、養液分析を行い、栽培支援を行っている。



【ほ場巡回の様子】

住みよい農村づくり

■ 普及指導活動 東海ブロック現地活動調査研究会を開催

10月25、26日の2日間、平成30年度東海ブロック現地活動調査研究会が開催された。この研究会は、東海3県の普及職員及び関係者を対象として、資質向上や情報共有等を目的に毎年開催されており、今年度は岐阜県が担当県として西濃地域で実施し、約50人が参加した。1日目の室内研修では、各県から普及活動事例の発表の他、2人の講師から普及活動に対する期待及び助言を聴講した。2日目の現地研修では、海津市の県就農支援センターと大垣市の梨根圏制御栽培実証ほ場を視察し、担い手育成や産地振興について知見を深めた。

農業普及課は研究会の企画立案、連絡調整、関係機関との連携、研究会の運営等を行い、各行事を主導して実施した。



【就農支援センターの視察の様子】